

熊本大学におけるeラーニング実践

著者	志村, 友行
発行年	2009-09-03
その他の言語のタイトル	クマモト ダイガク ニ オケル eラーニング ジッセン
URL	http://hdl.handle.net/2298/13366

熊本大学における e ラーニング実践

志村 友行

熊本大学 e ラーニング推進機構

〒860-8555 熊本市黒髪 2-40-1

E-mail: shimura@kumamoto-u.ac.jp

1. はじめに

e ラーニング推進機構は、熊本大学における e ラーニング推進・支援体制の確立を目指し、平成 19 年 4 月に発足した。本発表では、本学の e ラーニング実践の中核的存在である社会文化科学研究科教授システム学専攻を紹介し、同専攻のコース開発および運用における本機構のサポート事例を示す。

2. 教授システム学専攻

熊本大学の e ラーニング実践の中核的存在となっているのが、社会文化科学研究科教授システム学専攻である。同専攻は「e ラーニングによる e ラーニング専門家の育成」をコンセプトとするインターネット大学院であり、すべての学習はオンライン上で行われている。本機構では全科目の e ラーニング化と科目運営の補佐を行っている。

遠隔学習では学習者の進捗状況管理が特に重要で、1 つの科目は全 15 回の講義に分かれていて、さらにブロックに分けられている。各学生の達成度に応じて各講義の進捗状況は「受付中」「添削中」「PASS」「再提出」「保留」へ変更される。各回には公開条件の設定も可能で、担当教員からの指示に基づき随時設定を行い、講義内容確認用のアセスメント（小テスト、クイズ）作成や、講義用資料の Web 上での閲覧に適した整形、科目で動画を使用する際には収録なども行っている。

教授システム学専攻では平成 20 年度から新たにストーリー中心型カリキュラム（SCC）を導入している。SCC とは、ひとつの導入されたストーリーに沿って学習が進められ、個々の独立した科目として授業を教えるのではなく、体系的に教育課程を学ばせる方法である。具体的には、以前は同時進行で、「A、B、C 科目それぞれを 1→2→3」のように並列的に履修していたものを、「B 科目の 1→2→3→A 科目の 1→C 科目の 1」のように直列的にストーリーの展開に応じて随時履修していく。

3. 熊本大学における e ラーニング環境

e ラーニング科目の作成および運営のために熊本大学では学習運営システムを利用している。学習運営システムとは学習者の登録・学習履歴の管理・学習の進捗管理・コンテンツ配信などの機能を持っているシステムのことである。

e ラーニングには、Web 上のアセスメント等のツールを使ったものと、講師による講演、実

験動画を使ったものがある。また、eラーニング化の度合いによって、すべてをオンライン上で行うフルeラーニングや一部対面授業を取り入れているブレンデッドeラーニングなどにも分けられる。本学では、必要に応じて様々な形態を使い分けている。

本機構には、動画収録のために使用するビデオカメラや動画編集用のPCおよびソフトウェア、音声収録用のミキサーやチューナー、さらに収録専用設計された防音壁に囲まれた部屋（スタジオ）等の設備も整っている。

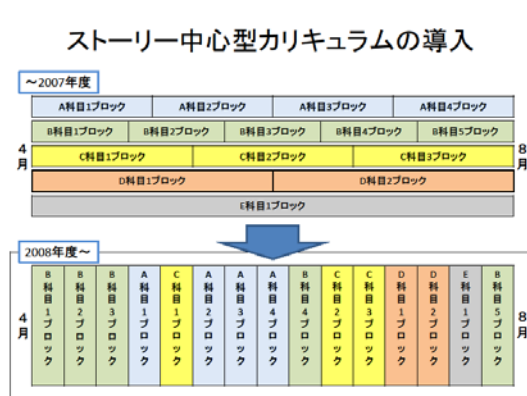


図1 ストーリー中心型カリキュラム導入前後比較図



図2 スタジオでの収録の様子

4. eラーニングの普及活動について

国内外の著名なeラーニング専門家を招いて開催された様々な講演会を支援してきた。また、学内の教職員向けに毎週火曜に科目のeラーニング化に関する講習会を開催して、eラーニング科目作成の手順や方法について教職員に教えている。毎年夏にはeラーニングワールドやオープンキャンパスへ出展し一般企業や社会人、中学生や高校生向けに熊本大学のeラーニングを活用した教育を紹介している。

5. おわりに

教授システム学専攻以外にも他学部の教員や学部全体から科目や講習会、研修会のeラーニング化の要請があり、積極的に協力し、よりよいeラーニング実践のために、依頼者側と技術や知識を共有し緊密に連携している。

本機構の発足当時と比べてみると、熊本大学のeラーニングは飛躍的に進んできている。今後は、eラーニングの利便性、将来性、発展性、可能性をより多くの教職員や学生にアピールして、より多くの科目でeラーニングが活用され、発展していくよう努力していく。